

## 新生児聴覚検査は一部が公費負担になります

聴覚障がい、早期発見・早期療育が大切です。生まれて間もない赤ちゃんを対象に行う「耳の聞こえ」の検査を新生児聴覚検査といい、産科、産婦人科で行われます。この検査は、難聴の有無を判断するものではなく、より細かな検査（要精密検査）が必要な対象（「リファア」）を選び出すものです。日本耳鼻咽喉科学会によると、毎年約100万人の出生児のうち約4000人（0.4%）の新生児が「リファア」となり、耳鼻咽喉科を受診して精密な聴力検査を行った結果、30%が両側難聴と診断、うち60%が補聴器を装着して療育を開始したそうです。しかし、新生児聴覚検査の実施には地域差があり、その結果、耳鼻咽喉科への紹介が多い県と少ない県では約10倍の開きがあるそうです。

厚生労働省では、平成29年12月に「新生児聴覚検査の実施について」を各県に通知し、それを受けて愛媛県内の市町では、平成30年10月1日以後の全ての出生児に対して、新生児聴覚検査を受けられるよう、検査費用の一部を公費負担し、検査の実施をこれまで以上に促すことになりました。聴覚障がい児への早期からの支援がさらに充実することが期待されます。

※ この記事は、次の資料を参考にして作成しました。

- 日本産婦人科医会記者懇談会資料 平成26年6月11日 日本記者クラブ  
[http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/01/77\\_140611.pdf](http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/01/77_140611.pdf)
- 日本耳鼻咽喉科学会発表資料 平成27年5月13日 日本記者クラブ  
[http://www.jibika.or.jp/members/news/kikoe\\_20150821.pdf](http://www.jibika.or.jp/members/news/kikoe_20150821.pdf)



## 第5回手話パフォーマンス甲子園 予選通過 20 チーム決定!

(大会当日はライブ配信 (YouTube) で)

10月7日(日)に鳥取県で開催される手話パフォーマンス甲子園は、62チームの参加申込みがあり、予選審査の結果、20チームが本選出場を決めました。そのうち、ろう学校(支援学校)は7チーム(高等学校との合同チームを含む)です。また、初出場5校の中には、愛媛県の済美高等学校の名前もありました。ちなみに予選トップは、一昨年度の準優勝校である沖縄県の真和志高等学校、2位は昨年度優勝の奈良ろう学校でした。

会場に見に行けない人のために、当日は「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」でライブ配信が行われます。是非アクセスしてみてください。

(配信URL) <https://www.youtube.com/user/skoushien>

東京都・立川ろう学校  
富士森高等学校(合同チーム)  
東京都・中央ろう学校  
神奈川県・日本女子大学附属高等学校  
神奈川県・横浜南陵高等学校  
石川県・田鶴浜高等学校  
愛知県・岡崎東高等学校  
愛知県・杏和高等学校  
奈良県・聖心学園中等教育学校  
奈良県・奈良県立ろう学校  
兵庫県・鳴尾高等学校  
鳥取県・琴の浦高等特別支援学校  
鳥取県・鳥取城北高等学校  
鳥取県・境港総合技術高等学校  
鳥取県・米子東高等学校  
広島県・ノートルダム清心高等学校  
広島南特別支援学校(合同チーム)  
愛媛県・済美高等学校  
福岡県・三井高等学校  
熊本県・黒石原支援学校  
熊本県・熊本聾学校  
沖縄県・真和志高等学校

## 書籍の紹介

## 「聴こえない・聴こえにくい子どもの理解のために」

南村洋子 著 ろう・難聴教育研究会 編集・発行 頒価 1200円 (+送料)

本文より

・・・「聴こえない・聴こえにくいことにこそ価値がある」と言って、自分の道を切り開いた聴こえない本人がいる。本来ならば、保護者自身がいち早くそのことに気づき、わが子の子育てに楽しみと喜びを見出すような支援がなされることが望ましいと考える。・・・



著者の南村洋子さんは、以前より「母と子の教室」と「聴覚障害児と共に歩む会・トライアングル」で聴覚障害乳幼児の支援に従事され、現在はろう・難聴教育研究会副会長、全国早期支援研究協議会会長、大塚ろう学校早期支援部非常勤講師、そして大学講師として活躍されています。また、聴こえない子を持つ親でもあります。

南村さんの著書の中には、「たんぽぽの道」という、御自身の子育てをベースとした手記があります。今回の「聴こえない・聴こえにくい子どもの理解のために」は、その子育ての経験をもとにした、特に近年携わってきたろう学校での乳幼児相談や早期支援での取り組みが具体的に述べられています。まえがきで南村さんは「ろう教育の要は、乳幼児相談時の保護者支援であり、保護者が聴こえない・聴こえにくいわが子にたいしてどのような価値観をもつかで、子どもの未来がきまるということである。」と述べられています。冊子には「早期支援担当者の方々へ」とありますが、担当者はもちろん、ろう教育に携わる全ての方へ御一読をおすすめしたいと思います。

問い合わせ・注文書送付先: ろう難聴教育研究会事務局 (前田芳弘さん)  
(Eメール [tcymaeda@hotmail.com](mailto:tcymaeda@hotmail.com))

※ 現在、校内で書籍の注文を取りまとめています。希望される保護者の方は担任の先生までお尋ねください。

## NHK手話CGを使ってみましょう!

「手話CG」は、NHK放送技術研究所が開発を進めているもので、単語1つ1つについて、実際の手話の動きを取り込んで(モーションキャプチャ)、コンピューターグラフィックス(CG)化したものです。現在およそ7,000語を作成しています。

以前、みみちゃん57号(2014.3発行)で紹介したときは何故か校内からアクセスしたときに動画を見ることができませんでしたが、現在は問題なく視聴できます。このページは、本来、手話の評価及び改善が目的のようですが、手話を調べるのにも大変便利です。コンピューターグラフィックスで示される手話は、ゆっくり再生することもでき、動きや表情もよくわかります。是非、使ってみてください。

URL <https://www2.nhk.or.jp/signlanguage/index.cgi>



知っていますか？

# 「インクルDB」

(インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

「インクルDB」は、国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システム推進センターが運営しているサイトです。子供の実態からどのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考となる事例を紹介しています。また、研修会での事例検討にも活用できます。サイトには、3つのコンテンツがあります。

① 「合理的配慮」実践事例データベース

「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」で取り組まれている事例を検索するシステムです。

② 相談コーナー

都道府県・市区町村・学校からのインクルーシブ教育システム構築の相談を行っています。

③ 関連情報

インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載しています。

「インクルDB」は、各学校の先生だけでなく、保護者の方をはじめ、広く一般の方にも御利用いただくことができます。

ブラウザの検索窓に「インクルDB」と入力し、アクセスしてみてください。



## 補聴器とAI（人工知能）の関係は？

～ 脳の健康を測るAI補聴器 ～



アメリカの補聴器メーカーのスターキー社が、脳の健康を測るAI補聴器「Livio AI」発表しました。AI制御による聴覚補助機能は周囲の騒音が大きければそれを小さくするよう動作するだけでなく、モバイルアプリのGPSとも連動し、ロケーションに応じたモード切替が行なえるようです。また、この補聴器の最大の特徴は「ヘルストラッカー機能」というもので、これは、ユーザーの日常生活における認識機能の様子から脳の健康状態を判定すること。ユーザーが活発に動き、誰かと会話している状況が続けば、脳を十分に活用(認識機能が活性化)しているとして、脳の健康が”良い状態”と判定するという仕組みだそうです。

Livio AIは、スターキー本社のホームページでは既に紹介されていて、北米地域では既に入手可能のようです。一方、スターキージャパンのホームページではこの補聴器には触れられておらず、日本での販売は不明です。ただ、日本でもスターキーの補聴器は販売されていますので、ゆくゆくは、Livio AIも入ってくるようになるかもしれません。



この記事は、Engadget 日本版  
<https://japanese.engadget.com/2018/08/28/ai-livio-ai-alexa/>  
 の記事をもとに作成しました。

特定非営利活動法人 えひめ盲ろう者友の会より

## 平成 30 年度盲ろう者向け 通訳・ガイドヘルパー養成研修会 開催のお知らせ

盲ろう者が社会参加する上で「通訳・ガイドヘルパー」は、盲ろう者の移動やコミュニケーションを支援する大切な役割を果たします。この研修会では、8回の講習を通してコミュニケーション手段や移動介助について学びます。全ての講習に出席すると、県から修了証が交付され、名簿に登録されます。そして、盲ろう者向け通訳・ガイドヘルパー派遣事業及び同行援護のサービス提供者として活動することができます（もし、今年度全て受講できなくても、次年度以降の講習で、該当するコマを受講すれば終了となります）。

興味のある方は、えひめ盲ろう者友の会事務局までお問い合わせください。

ホームページ : <http://tarzans.sakura.ne.jp/tomonikai>

Eメール : tomonikai@tarzans.sakura.ne.jp

## 第 13 回人工内耳相談会のお知らせ

日時: 2018年9月30日(日) 12:30 ~ 16:00 (12:00開場)

場所: 宇和文化会館 中ホール(西予市宇和町卯之町三丁目444番地)

内容: 講演① 「きこえの仕組みと人工内耳」

愛媛大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 寺岡 正人 先生

講演② 「人工内耳のリハビリテーション」

愛媛人工内耳リハビリテーションセンター 高橋 信雄 先生

その他、人工内耳装用者体験発表、メーカー説明、個別相談 等

参加費: 無料

**編集後記** 「脳健康を測る AI 補聴器」の記事をネットで見つけ、スマートフォンがどんどんバージョンアップしているように、近年の補聴器技術もかなり進歩していることを改めて感じました。デジタル補聴器に搭載されている騒音抑制や指向性等、いわば「雑音と信号音」を区別し話し声や聞きたい音だけを増幅する技術は、既に「AI」的でもあります。では、その上で敢えて「AI 補聴器」とはということなのかと思い、記事に目を通しました。この補聴器の「AI」は、脳健康状態の判定であり、補聴器が持つ細かな騒音や会話音等の音分析の機能を用いて、日頃の行動やコミュニケーションの様子を推測するということのように思いました。最近、認知症と難聴の関係性、補聴器の効果があちこちで論じられているのを目にしたこともあり、コミュニケーション不足は脳健康にも影響を及ぼすことを、ここでも知らされることになりました。

ここ数年、児童生徒に「未来の補聴器・人工内耳」についての絵をかいてもらう活動を行っているのですが、この補聴器も機能的には、現実にある「未来の補聴器」だと思いました。